

前二戦國海軍

海軍功績朝直部
長殿

四根模密第一六號

自昭和十八年十二月一日
至昭和十八年十二月三十一日

第十四根據地隊戰時日誌

第十四根據地隊司令部

一
日
付



1414

目次

- 一 経過
- 二 人員、現状
- 三 令達報告等
- 四 参考考
- 五 作戦経過、概要

(目次終)

1414-2

自昭和十八年十二月三十一日
至昭和十八年十二月三十一日 第十四根據地隊戦時日誌

一 経過

(イ) 敵情

「ニューギニア」東部、戦況敵ニ有利ニ進展スルヤ 中旬ニ至リテ「ニューブリテン」島
「マーカス」岬ニ下旬ニ同島「ツルブ」ニ上陸シ基地強化ニ努カメ「ダンピール」海峡
ヲ予中ニ收メ一方「タロキナ」ヨリスル「ラボール」ノ航空攻撃漸ク頻繁トナリ
タリ

(ロ) 我軍ノ状況

「ホ」島ヨリ轉進シ來レル舊第一聯合特別陸戦隊ヲ基幹(除横七特)トシテ
八十三警備隊ヲ之ニ合シ本月一日附第十四根據地隊新設セラレ該隊北部
RN方面占領地域及「アドミラルテ」諸島ノ防衛ニ任ズ

一 人員ノ現状

1414-3

司令官部

(4) 主西支職員官氏名

同	同	司令部附	療				幕		司令官	職
			主計長	軍醫長	副官	同	同	參謀		
分隊士 主任		分隊士			通信主任 航海長 通信長 隊長 職務執行	砲術主任 砲術長 職務執行	機関主任 機関長 職務執行	全 般 所轄長 職務執行	主 務 官	
主中尉	同	醫大尉	主少佐	醫中佐	同	大尉	少佐	中佐	少將	
中村盛人	杉江三郎	菅原古人	後藤安之介	武安季春	萩原一男	平塚清一	國定義男	吉野捷三	大田實	
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	同 昭和一八一三 一補職 日着任	
									氏 名 記 事	

1415

前二頁註

海軍功績顕著部長殿

第十四根椋密第一六號ノ二

自昭和十九年一月一日
至昭和十九年一月三十一日

第十四根椋地隊戦時日誌

第十四根椋地隊司令部

四月五日送付



1416

目次

一 経過

二 人員ノ現状

三 令達報告等

四 参考

五 作戦経過ノ概要

(目次終)

1417

自昭和十九年一月一日
至昭和十九年一月三十一日
第十四根據地隊戦時日誌

経過

(イ) 敵情

「タロキナ」「マカス」「ツルブ」ノ基地強化並ニ行場整備ニ努ムルト共「ラバウル」ニ對スル航空攻撃ノ手ヲ緩メズ後方ニ於ケル増援部隊ノ集結及補給等着々ト行ヒツツアリ
一方ギルバート諸島ヲ占領セリ

(ロ) 我軍ノ情況

着々根據地隊ノ陣容ヲ整ヘ防備強化ニ努ム

人員ノ現狀

(一) 司令部

(イ) 主要職員官氏名

職		主務		官		氏名		記	
司令官				少將	大田	實			
參謀	全股	所轄長職務執行		中佐	吉野	捷三			
同	機關主務	機關長内務長職務執行		少佐	國定	義男			
同	砲術主務	砲術長檢閲長職務執行		大尉	平塚	清一			
副官	通信主務	通信長檢閲長職務執行		同	萩原	一男			
軍需長				醫中佐	武安	季春			
主計長	兼入部主任支部長(九二二)			主少佐	後藤	安之次			
司令部附	分隊長			醫大尉	菅原	古人	九二二 横領附		
同				同	杉江	三郎			
同				同	清川	素道	九二二 補隊 九二二 補隊		
同	度務主任分隊長			主中尉	中村	盛人			
同				少尉	芦川	久雄			

1419

海軍功績調査部長 殿

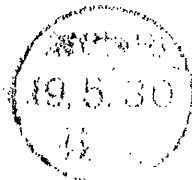
第十四根拠密第一六號、三

自昭和十九年二月一日
至昭和十九年二月二十九日

第十四根拠地隊戦時日誌

第十四根拠地隊司令部

四月八日



1420

目次

- 一、經過
- 二、人員ノ現狀
- 三、令達報告等
- 四、參考
- 五、作戰經過、概要

(目次終)

1421

自昭和十九年二月一日
至昭和十九年二月二十九日
第十四根據地隊戰時日誌

一 經過

(イ) 敵情

連日熾烈ナル航空攻撃ヲ「ラポール」ニ及復スルト共ニ「ビスマルク」諸島近
海ノ飛行機ヲ以テスル哨戒索敵ハ晝夜ノ別ナク嚴重ヲ極メ「ロンドンゴウ」
ニ對スル爆撃ヲ頻繁ニ行フト共ニ中旬ニ至ツテ「カビエン」ニ對シテモ航空攻撃
ヲ加ヘ來リ一方「グリーン」島ヲ占領シ下旬ニ海上兵力ヲ以テスル傍若無人
ノ艦砲射撃ヲ各地ニ加フル至リ月末ニ「アドミラルティ」諸島ノ「ハイ」
飛行場地區ヲ占領セリ 他方「マニヤル」諸島ニ侵攻セリ

(ロ) 我軍ノ狀況

北部RN方面占領地域ノ防衛並ニ附近海面ノ敵潛掃蕩ニ任ズ
人員ノ現狀

(一) 司令部
 (イ) 主要職員官氏名

同	司令部附	僚			幕			司令官		職	主務
		主計長	軍醫團長	副官	同	同	參謀	司令官	司令官		
分隊長		三八雷カヒエン支部長		通信事務 航海長通信長分隊長 職務執行	砲術主務 砲術長機雷長職務 執行	機関主務 機関長内務長職務 執行	全股 所隊長職務執行				
同	醫大尉	主少佐	醫中佐	同	大尉	少佐	中佐	大佐	少將	官	
杉江三郎	菅原古入	後藤安之介	武安季春	萩原一男	平塚清一	國定義男	吉野捷三	田村劉吉	大田 寛大	氏名	
	昭和五三〇機雷隊 一九三四年退隊							昭和五三〇機雷隊 一九三四年退隊 一九三二補隊 一九三二補任		記事	

1423

第十四根拠地隊司令部

第十四根拠地隊第一七號

昭和十九年三月一日

特設捕獲網艇の戦闘詳報

(昭和十九年二月十五日)

(對空戦闘)

第十四根拠地隊司令部



1424

目次

- 一 形勢
- 二 計畫
- 三 経過
- 四 令達報告等
- 五 戦米及被害
- 六 使用兵器、現状
- 七 功績
- 八 参考

一、形勢

二月十一日以後連日大規模空襲あり敵空軍、意圖ハガビエ
シ地已、軍事施設ヲ攻撃スルト共ニ水上艦艇ニ對シ徹底的
攻撃ヲ加ヘ以テ水上輸送路ヲ遮断セントスルモノ、如何
ナル小艦艇トモモ敵機、追跡爆撃ヲ受ケツツアル情勢ニアリ

二、計畫

(一) 如上情勢ヲ鑑ミ、揚子江ハ避泊地ヲ第二見張所前面約三百
米南トシ船体隠蔽、目的ヲ以テ陸岸森林地帯ニ後部ヲ
撃留ス

(二) 射撃指揮官

二十五糎新裝機銃(艇長)

八糎砲(前部)十三糎機銃(射撃指揮官)

爆雷砲台(後部)十三糎機銃(掌機雷長)

山攻撃区分

敵機一機、場合

全砲火ヲ之ニ集中シ攻撃ス

編隊、場合

一香機ヲ五機銃 二香機 前部砲台

三香機後部 十三機銃

三経過概要

○七三五 空襲報告報發令

直ニ配置ニ就キ對空戦斗下入待

機 機銃及揚銷機(用意(○七三〇完成))

○七三五

敵機、一スアメリカン五機編隊(四ヶ編隊)ハ南方ヨリ高度四百米

ニテ水上基地上空ニ向テ機銃掃射ヲ行ヒツツ現ハシタルヲ以テ本

砲火器ハ全カヲ以テ之ヲ攻撃シ多数、命中ヲ彈ヲ確認ス

然レテ水上基地上空ヨリ「オサ島」上空ニ敵機退、コノ時カソ

リンヲ噴キツツ「オサ島」航過後海中ニ突入セル敵機ヲ確認ス

○七四〇 敵機、一スアメリカン五機又ハ四機編隊ハ本艇左百度方向ヨリ

高度四十米ニテ表能散 全火器ヲ之ニ集ヤリスルモ本破又艦橋
 又左舷側ニ參個ノ命甲彈ヲ發シ同國ニ數個ノ至近彈ヲ受ケ
 艦橋附近先ヅ火災ヲ生ジニテ主砲機銃ハ全ク崩倒シ前後
 十三耗機銃ハ彈片及激動ニ依リ破損シ戦闘全ク不可能ニ成リ
 機械室又一號翠電機及消防ポンプ使用不可能トアリ加フルニ
 多量ノ爆煙ニ包マレ呼吸困難トアリクルヲ以テ機長ノ命トシテ
 上甲板ニ避退ス此ノ時敵機ノ銃爆撃ヲ猶熾クアリ
 是日五艦橋附近猛火ニ包マレ機銃彈ノ自爆甚クダレク万策盡キタルヲ
 以テ負傷者ヲ陸上ニ收容ス
 一六三〇負傷者ヲ十四名病舎ニ收容後警戒見張りニ赴キタルニ飛全休
 猛火ニ包マレ艦橋附近ハ水際近焼失ニ居レリ
 二〇〇〇大爆發ト共ニ沈没ス爆雷庫ノ四個ノ爆雷ノ自爆ヨリ自
 沈セルモノト認ム

四 令違報告等

ナシ

五 戦果及被害

一 戦果 敵機撃墜 六機 内不確実三機
二 被害 溺つ死没 艇長以下十四名戦死
射撃指揮官以下十二名戦傷

六 使用兵器ノ現状

一 五五口径新装機銃 一基
二 三三口径単装機銃 二基

七 功績

今次ノ爆撃ハ先ヅ水上艦艇ヲ目標トシテ如ク本艇ニ對スル攻撃ハ
猛烈ヲ極メタリ

本艇艦橋ニ被弾 艇長焼死シテトモ乗員ノ士氣挫メテ
艦橋手次ノ現ニ未ル敵機ニ對シテ死傷ノ攻撃ヲテシ克ク前記

戦米ヲ得タリ

ハ 参 考

敵機ノ攻撃ハ機銃掃射ハ艦橋及對空火器ニ集中スニテ
五挺機銃及十三挺機銃ニ對スル防弾板ハ絶對必要ナ
認ム

(四) 乗員ニ對シ腹巻ヲ着用ヲ勸行セシメタリ。爆風ニ依ル腹部ノ
強圧ヲ抑制シ小指頭大ノ彈片ハ之ニ依リ防止セルモノアリ
又負傷セル場合ハ引裂キテ止血ニ綯帶ニ使用シ治療ヲ受
クル迄ノ臨時ノ處置ニ最適ノモノト認ム

(終)